

2018年度（第15期）事業計画書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会

2018年度 事業実施の方針

2018年度の事業実施方針は以下のとおりである。

昨年度まで、JICA 草の根パートナー受託事業が経済的に大きなウエイトを占めていたが、2017年12月にその事業が終了した。その事業との関連で同受託事業に新事業申請を行ったが残念ながら、採用されなかった。よって、2018年度の収入は激減することが予想されるが、今まで継続的に行われている、農村リーダー育成事業（持続可能な農業・農村開発コース）、有機農業組合支援事業、裁縫・縫製事業、アーシャ学校支援事業、女性の収入向上事業を自立的に継続できるよう支援、協力をする。

その現地拠点を昨年同様、北インド・ウッタラプラデシュ州アラハバード県にあるサムヒギンボトム農工科学大学マキノスクールとする。これらの支援を行うために、国内事務局スタッフ1~2名、現地事務所に日本人スタッフ2名、専門家、インターン1~2名、ボランティアを派遣し、必要業務を遂行する。

来年度のための受託事業申請、助成金申請先として、外務省の日本 NGO 連携無償資金協力、味の素、アジア生協協力基金、イオン財団、大阪コミュニティー財団等を模索し、且つ、現地での自立活動を継続するために、収入向上事業の活発化、アーシャ会員数と募金の増強、広報活動の強化を図る。

上記の項目を今年度における基本計画方針とする。

I. 特定非営利活動に係る事業

1. 農村開発・農業開発支援事業

持続可能な農業・農村開発・収入向上事業

1-1 貧困農民のための収入向上活動事業

- 昨年同様に、アラハバード有機農業組合（以下 AOAC と訳す）をカウンターパートとし、有機野菜、日本米栽培、キノコ、加工食品（特に、味噌、醤油、食肉加工品、漬物、乾燥キノコ、レモンジュース、乾燥モリンガ）の質の向上と販路拡大のための協力支援を行う。また、栽培農家がアラハバード市街地で農産物の直接販売ができるように支援する。
- 昨年5月に農村保健ボランティアが中心になって設立された現地 NGO アーシャ ビカス セワ サミティ（以下 AVSS と訳す）の自立支援をするために、モリンガ及びハイビスカス栽

培、加工、販売協力支援を行う。

- アーシャ ビカス シャクティ（以下 AVS と訳す）の農村女性が制作する手工芸品のデザイン及び販売支援を行う。

1-2 アーシャ農村学校及び持続可能な農村開発研修センターの効果的な活用

「持続可能な農村開発研修センター(マキノスクールの3階)」及び、本会と JICA の支援によって建てられたアラハバード県内の農村4ヵ所に設立されたアーシャ農村学校、及びジャスラ郡のマエダフィールド事務所を多目的に活用できるように、協力、助言活動をする。活用内容は、アーシャ学校教師の合同月例会議、有機農業の普及、農村住民リーダー育成、子どもの教育、農村女性の為の技術訓練、特にモリンガ、ローゼル(ハイビスカス)の苗づくり及び栽培等の勉強会を実施する。

2. 人材育成支援事業

2-1 持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上

当コースは約9カ月間の持続可能な農業農村開発を中心とした研修コースで、アジアの農村で献身的に働く農村リーダーを養成することを目的にしている。今年度は、インド人2名、ミャンマー人2名、日本人1名、合計5名の新入生を予定している。

2-2 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業

(1) アーシャ学校(3村、3校・児童500名)の運営と教育改善のための支援

児童に対する保健教育を中心に、環境教育、農業教育、美術教育などを特別学習プログラムとして支援する。

(2) アーシャ学校教師の研修支援

アーシャ学校教師が教師としての資質を向上できるように、マキノスクールで年1~2回教師のセミナーを実施する。

(3) アーシャ学校の基盤整備支援

必要に応じて、風雨等で壊れた校舎の屋根、床等の修理改善の支援をする。

(4) アーシャ学校の生徒に対する奨学金寄与

アーシャ学校の授業料は他の私立学校に比べ低く設定されている。これは貧困家庭の生徒に奨学金を提供することによって、教師はある程度の収入を確保することができるようにするためである

2-3 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

農村女性の収入向上のための事業として、昨年同様、2ヵ所のアーシャ農村学校で行われる基礎裁縫クラス(基礎コース4月から3ヵ月間、実践コース3ヵ月間)の研修を支援する。日本でデザイナーとして活躍している竹内あさみ氏を4-5月に1ヵ月、デザイン開発と指導のために派遣する。また、レディーフォーで寄付を募り、縫製の専門家を約2週間派遣し、縫製技術の指導を5名の農村女性に行う。

2-4 農村保健衛生改善支援事業

AVSS（アーシャ ビカス セワ サミティ）の普及員がモリンガの植林を農村で普及し、モリンガの葉の集荷・粉末への加工を行い農村住民の収入向上と、組織の収入向上を目指す。本会はその計画立案、販売協力、加工指導を行うため今年度はパナソニックに助成金申請を行い、確保できた場合には、三浦孝子を専門家として派遣する。

また、昨年度、創価大学の学生グループ「ヘルスお届け隊」により貧血予防のための鉄ナスが1000個寄付されたが、配布しきれていない700個の鉄ナスを農村女性に配布するため、今年度、創価大学ヘルスお届け隊のメンバーがアラハバードを訪問、アーシャとコラボで配布活動を行う計画である。

昨年度製作した「モリンガと緑葉野菜レシピブック」を、今後も農村母子保健普及活動に役立てる。

3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業

3-1. ワークキャンプ・スタディーツアー開催、訪問者受入

- インターンシップ研修プログラム開催（9月2～16日）アーシャ主催で現地集合
主に日本人大学生を中心に公募し、マキノスクールにおいて農村開発、農業、食品加工、販売等の研修プログラムを開催する。
- スタディーツアーの開催（アーシャ・公益社団法人全国愛農会・インド三浦後援会・マキノスクール共催）。主催は（株）マイチケットにする予定である。
2018年3月（11日間程度）：内容は本会理事が中心となって企画。

3-2. 会報の発行

アーシャの活動、サムヒギンボトム農工科学大学マキノスクールのプロジェクト活動内容を会員、支援者に理解していただくために年3回（8月、11月、3月）アーシャの機関紙を発行する。

3-3. ホームページ等での広報

ホームページ、ブログ、Facebook、広報の充実を図り、より広く当会の活動を知ってもらい、当会の認知度向上、会員増強を狙う。

3-4. 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

セミナー、講演、研修会、ワークショップ、交流会、絵画展 開催予定

現時点において計画されている時期と場所については以下の通りである。

- 5月26日 JPP 草の根事業報告会並びに現地活動報告会（那須塩原市長寿センター）
当報告会は「アースディ那須の協賛事業」として認定されている。
担当：現地派遣スタッフ及びインターン
- 5月13日 荘内教会及び荘内教会保育園において報告会 報告者：副代表理事
- 5月29日 5月29日青山学院大学にてNGOスタディーツアー合同説明会 担当：平野
- 6月12日 酪農学園大学にてインドプロジェクト報告会 報告者：副代表理事

- 6月13日 とわの森三愛高校にてインドプロジェクト報告会 報告者：副代表理事
- 6月6日 酪農学園大学にてインドプロジェクト報告会 報告者：副代表理事
- 6月11日 鶴川教会にてインドプロジェクト報告会 報告者：副代表理事
- 6月18日 田園調布教会にてインドプロジェクト報告会 報告者：副代表理事
- 7月 那須塩原市にてインドカレーとモリンガパウダー料理教室 講師：代表理事
- 7月21日 栃木県国際交流協会主催グローバルセミナー 担当 代表理事
(本会は北インド農村女性の自立支援について参加型のセミナーを予定)
- 7月31日 福岡県立大学大学院にて「北インドに於ける母子保健支援活動について」
講演 講師：代表理事
- 1月 スタディーツアー参加者に対する事前学習会 講師：中西理事
- 2月 那須塩原市にて活動報告セミナー&インドカレークッキング教室 講師：代表理事
- 絵画展、写真展、映写会等 開催地・開催時期未定

3-5. 次期事業形成調査

- (1) 現地事業総責任者である代表理事及び副代表理事が JICA の関係者、外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業の協議を始めている。また、5月中旬から6月下旬にかけて、上記報告会もかねて、東京、北海道、山形へ出張し、本会関係者や支援者と会い、今後の連携方針について話し合いを持ち、次期事業形成のための調査、協力体制の連携強化を図る。
- (2) 今年度より企業の CSR 活動へのアプローチ、企業からの寄付募集の活動を行う。この活動については、本会理事に担当になっていただき、国内事務所と現地事務所が協働しながら作業を進める。

4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

未定である。

II. その他の事業

1. バザー・チャリティ・販売事業

栃木県内にて、地域のバザー等に出店し、当会の活動の認知度向上、AOAC・AVSS商品の広報・販売を行う。定期的に(月一回)パン・アキモトの「きらむぎマルシェ」に参加し、上記商品の販売促進活動を行う計画である。また那須町のアジアン オールド バザールからも、ナイトバザールの誘いが来ている。

2013年度より開始した収入向上支援、調査、販売、新製品開発収入向上事業推進のためのマーケット開発、販売活動を継続する(代表理事、本会理事、国内・現地派遣スタッフ・インターン)。

現地派遣スタッフはアラハバード有機農業組合、AVSSの製品の販売を促進するために製品開発支援、マーケット開発を行い、国内スタッフは、収入向上支援のためアラハバードで生産、加工さ

れた岩塩、モリンガ(ワサビの木)葉のパウダー、及び農村女性が作った手工芸品の販売支援を行う。

また、国内では、モリンガ、モリンガ岩塩の啓発を行い、販売促進するために、「モリンガと緑葉野菜のレシピブック」を活用する。アーシャの正会員には、総会資料と共にレシピブックを配布する計画である。

さらに既に開始している SNS を利用した広報、商品紹介、注文販売をさらに充実させる。

2. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

国際交流・会の活動 PR のため、JICA 保健事業で出版した「モリンガと緑葉野菜レシピブック」を活用する。

Ⅲ. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1. 農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区30万人の農村住民	972
2. 人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・アラハバード地区	3名	研修生5名および研修生の活動地(インド メガラヤ州、マニプール州、日本)の農村住民各1,000名	1,052
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区 550名	180
	③裁縫学校の新規開設・運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・アラハバード地区	5名	インド・アラハバード地区 1,000名	723
	④農村保健衛生改善支援事業	1-3月	インド・アラハバード地区	5名	インド・アラハバード地区 30万人の農村住民	570
3. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報事業	①インターンシップ研修及びワークキャンプの開催・研修ツアー(各1回)・訪問者受入	年2回	日本	6名	日本国内 300名	999
	②会報の発行	年3回	日本・インド・米国	6名	日本国内、インド・米国 述べ約1,000名	173
	③次期事業形成調査	随時	日本・インド	2名	日本、インド	50
4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	随時	日本・インド	7名	日本国内	100
						4,729

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
1. バザー・チャリティ・販売事業	バザー出店、収入向上支援、調査、販売、新製品開発	随時	日本・インド	5名	2,850
2. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画展等実施	随時	日本	2名	0